

続報 聴衆の心をつかんだ欧州公演

平成26年度文化庁国際芸術交流支援事業



3月2日ベルリン公演カーテンコール（左）、演奏の様子（右） ©Peter Adamik

ベルリンなど欧州の主要5都市での公演を成功裏に終えた読売日本交響楽団。12年ぶりの海外遠征を率いた常任指揮者シルヴァン・カンブルランに、今回の成果や手応えを、最終訪問地のブリュッセルで語ってもらいました。本場での体験をたっぷり栄養にして帰国した楽員の声や、事務局員が見た舞台裏の様子もご紹介します。

常任指揮者 シルヴァン・カンブルラン インタビュー 大きく前進した「柔軟性」

今回、全体を通じて演奏の質はとても素晴らしく、聴衆の反応も良かったので、欧州公演は成功したと言えるでしょう。オーケストラにとっても、このように1週間以上、全員が一緒にいることで、それぞれがコミュニケーションを取り合う機会が増えたのは、非常に良いことでした。今回、私たちが成し遂げた結果をとても嬉しく思いますし、誇りに思っています。将来に希

望をもたせる内容です。

5都市でのすべての演奏会がそれぞれ印象的ですが、中でも忘れられない公演の一つはワルシャワ、もう一つがブリュッセルです。どちらも特別な雰囲気がありました。ブリュッセルのパレ・デ・ボザールでの最後の演奏会は、最上級の仕上がりだったと思います。それらの演奏会を通じて私は幸せを感じ、このように演奏できていることを

名誉に思いました。私はこのオーケストラを愛している、と思う瞬間が何度も訪れました。

訪欧中にオーケストラで大きく前進したのは、私が日ごろから強調している音楽作りでの「柔軟性」です。ツアー先では、会場の響きや聴衆の反応がまったく違います。そんな中で、いかに作品へ入り込んでいくかが問われ、対応が必要となります。楽団員は「どうやって皆で一緒に創造していくのか」を、懸命に考えてくれました。

この海外公演を通じてオーケストラにもたらされた成果は、今すぐにはなく、今後じっくりと現れてくることでしょう。ツアー前半で演奏したドヴォルザークの〈新世界から〉は弾き慣れた作品ですが、演奏は毎回、少しずつ細部が異なるものとなりました。演奏会に来た私の知人や音楽専門家は「今まで聴いたことのない新しい発見があり、とても新鮮だった」と言ってくれました。こうした柔軟な視点を大



3月3日ワルシャワ公演リハーサルの様子 ©読響

切に演奏していきたい。例えば、読響でこの後、定期的に取り上げる予定のブルックナーの交響曲でも、同じような反応を得ることになるでしょう。

最後に訪れたブリュッセルは、私が10年間にわたってモネ劇場で音楽監督を務め、このパレ・デ・ボザールでも何度も演奏した経験のある、とても重要な場所でした。また、今日（公演日の3月8日）は特別な日でした。ちょうど一年前の今日、私の大切な友人（辣腕のオペラ監督として活躍したジェラルド・モルティエ氏）が亡くなりました。もし今、彼がここにいたら、どんなに喜んでくれたかと思います。

（談）

3月2日（月）20:00	ベルリン・フィルハーモニー 大ホール（ベルリン・ドイツ）
3月3日（火）19:00	ワルシャワ・フィルハーモニーホール（ワルシャワ・ポーランド）
3月5日（木）20:00	ケルン・フィルハーモニー 大ホール（ケルン・ドイツ）

武満徹／鳥は星形の庭に降りる
バルトーク／ヴィオラ協奏曲（ヴィオラ：ニルス・メンケマイヤー）
アイヴズ／答えない質問
ドヴォルザーク／交響曲第9番〈新世界から〉
コンサートマスター：日下紗矢子

3月7日（土）20:15	ティヴォリ・フレイデンプルフ 大ホール（ユトレヒト・オランダ）
3月8日（日）15:00	パレ・デ・ボザール（ブリュッセル・ベルギー）

酒井健治／ブルーコンチェルト（読響委嘱作品・欧州初演）
メシアン／トゥランガリラ交響曲
（ピアノ：アンジェラ・ヒューイット、オンド・マルトノ：シンシア・ミラー）
コンサートマスター：小森谷巧

当団職員が見た舞台裏の表情

多くの楽団員にとって、初めて演奏する会場がほとんどでした。そのため、普段と異なる雰囲気が、舞台裏にもありました。特に、最初の公演のベルリンでは、それが強く感じられました。本番直前、黙々と楽器を弾いている人、静かに目を閉じて集中している人、ストレッチを繰り返している人、会話してリラックスしている人など、楽団員は思い思いに準備をしています。



ベルリン公演本番前の舞台裏
©Peter Adamik

平常心で過ごそうとしていたのかもしれませんが、これまでにない

大きく張り詰めた空気が漂いました。精悍な顔つきで、まさに大舞台の前にした真剣な眼差しが見られました。舞台裏でしか見られない、とても美しい光景です。

また、移動や食事など楽団員たちが長時間を共にするのも珍しい機会でした。移動時間は音楽を離れてリラックスしたり、いろんな会話を楽しんだり。終演後も、夜遅くまでお酒を飲み、時には音楽談義に花を咲かせることもありました。最終公演後に行われた乾杯時の皆の笑顔はとても輝いており、さらに結束力を高めた瞬間のように感じられました。

なお、ツアー中の楽団員の様子はFacebookページ (facebook.com/yomikyo2015) でご覧いただけます。

現地の新聞評「洗練された響き、考えられた選曲」

久々の欧州公演は現地のメディアでも関心を持って取り上げられました。批評はおおむね好意的で、極東からはるばる渡欧したオーケストラの演奏へ、真摯に向き合ってもらいました。

中でも高く評価されたのは、Aプログラムの後半でアイヴズ〈答えのない質問〉からドヴォルザーク〈新世界から〉へと続けて演奏したこと。ケルン

公演を評したケルニッシュ・ルントシヤウ紙は「その効果は抜群」と称賛し、「響きは洗練され、よく考えられた選曲が好印象」と述べました。

一方、ワルシャワのガゼタ・ポルスカ・ツォジェンニェ紙は「革新的発案だ」としながらも、「東京から来た楽団は完璧に演奏するマシンのようだった」と保留意見を付けました。

ソロ・ヴィオラ 鈴木康浩さん インタビュー 持ち前の集中力を発揮しました

欧州公演の最初は、ベルリン・フィルハーモニーのホールでした。僕は12年前、読響に入る前ですが、契約団員としてベルリン・フィルで弾いていたことがあるんです。それでベルリン・フィルの楽員で僕のヴィオラの先生がわざわざ会いに来てくれた。

特殊なホールなんですよ。

このホールで弾くと自分の音が目立って聴こえるんです。他のパートも聴こえるけど、自分の音が浮き立っているように感じる。慣れていないと緊張する。そんな風に今回の公演では、訪れた五つのホールとも響きがまったく違うということを僕たちは強く感じましたね。前半、後半と質の異なる曲目を慣れないホールでいきなり演奏したにもかかわらず、お客さんの心をしっかりとつかんだ感触がありました。そんな演奏ができるって、読響すごいじゃないかと思ったのです。

最後のブリュッセルは、バスに2時間半揺られてホールに到着、その後まもなく本番というハードなスケジュールでした。疲れが出てパフォーマンスが落ちてもおかしくないのに、読響は



ベルリン・フィルハーモニーのステージで再会した鈴木さん(右)と
ベルリン・フィルのワルター・キュッスナーさん ©読響

持ち前の集中力と順応性でカバーしました。その結果、最高の〈トゥーランガリラ交響曲〉だったと思います。

僕にとって日本のオーケストラの海外公演に参加したのは初めてだったので、どう受け入れられるかまったく予想できませんでした。でも、ベルリンやケルンで聴きに来てくれた友人の音楽家たちは、「精密さと情熱が同居していて、いい演奏だ」と高く評価してくれました。ワルシャワやブリュッセルは総立ちでしたし、反応がすごくいいことに新鮮な驚きを感じました。

今後の僕たちの演奏活動にもおおいにプラスになったと思います。お金では買えない貴重な「経験」が得られたから。チャンスがあればまた欧州に行きたいですね。(談)

◎首席トロンボーン奏者

栞田 晃

Akira Kuwata

日本初演の協奏曲、
面白いです。

「5月22日サントリーホール名曲シリーズで、指揮者でトロンボーン奏者でもあるクリスチャン・リンドバークさんと共演する。曲目はサンドストレームの〈永遠のエコー〉。2本のトロンボーンと管弦楽のための作品で、日本初演となる」

「〈永遠のエコー〉という曲は世界でもあまり演奏されていない曲です。リンドバークさんは簡単だよと言っていました、だまされました(笑)。技術的にはすごく難しい。オーケストラも難しいでしょうね。作曲家のサンドストレームさんはまだ60歳ぐらいですが、独特な曲が多いです。たとえば、有名な〈モーターバイク協奏曲〉。トロンボーンでバイクのエンジンの音を表現する。サンドストレームさんは、現代的で訳がわからないような曲の一方、普通にメロディックな曲も書く。

さて、〈永遠のエコー〉を聴いて皆さんは、どういう風にお感じになるでしょう？ リンドバークさんは今回、ト

ロンボーンを吹きながら指揮もしますが、いったいどうやるのか、そんなところも見ていて面白いと思いますよ。栞田さんは北海道生まれ。中学校から吹奏楽部でトロンボーンを始めた。武蔵野音大に在学中、新日本フィルハーモニー交響楽団に入団する。スウェーデン人のリンドバークさんと出会ったのは、1991年第8回日本管打楽器コンクールのトロンボーン部門で第2位を獲得したころのことである」

このコンクールに、リンドバークさんは審査員として初来日したのです。当時からトロンボーン奏者としては世界的に有名でした。コンクールの第1位はリンドバークさんのお弟子さんでした。私はその後、リンドバークさんの公開レッスンを受けたこともあります。

「栞田さんは1997年2月に読響に入団。その後、第1回大阪トロンボーンコンペティションのソロ部門第2位を受賞、ソロCD「COLORS」もリリースしている」

読響でリンドバークさんと出会ったのは、2008年11月のことです。彼は読響の演奏会にソリストとして出演しました。曲は、カレヴィ・アホの〈交響曲第9番〜トロンボーンと管弦楽の



ための〉。リンドバークさんが私の顔を見て、「なんだ君、ここにいたのか」なんてね。その時に、今度一緒に読響で吹こうよという話もしたのです。栞田さんは、2011年3月の東日本大震災の直後にも来日していますね」

ちょうど震災の時に、海外のオーケストラと一緒に指揮者として来日する予定でした。ところが、オーケストラのほうキャンセルした。彼はこういう時だからこそ日本に行きたいと、結局一人で来たのです。東京でリサイタ

ルをやって、日本のために〈日出づる国〉という曲を書いた。それに感動して、僕も同じ年に自分のリサイタルで彼の曲を吹きました。リンドバークさんのCDはだいたい持っています。すごくたくさん作っている。

最近、彼は指揮も始めましたが、キャラクター的には指揮者にも向いているんじゃないかと思います。とにかくテンションの高い人です。

「最後にトロンボーンの魅力について一言」

大きな音から小さな音まで幅が広い楽器です。

いわば「ダイナミクス製造機」ともいえると思います。ブラームスのコラールを吹いていると、トロンボーンをやっていて本当に良かったと感じます。読響のトロンボーン奏者は皆体格が大きいので、体重も審査しているのかと言われますが(笑)、体が小さくても上手な人はいっぱいいます。

中高生にトロンボーンを教えに行くことがあります、最近女の子ばかりなのに驚きます。男の子は楽器よりもサッカーなのでしょうか。ちょっとさびしい気もします。

管弦楽&合唱、総勢200人以上による壮大なハーモニー

6/5(金) 19:00 第549回 定期演奏会
サントリーホール

マーラー：交響曲 第3番

指揮：ユーリ・テミルカーノフ メゾ・ソプラノ：小山由美
女声合唱：新国立劇場合唱団 児童合唱：NHK東京児童合唱団



ユーリ・
テミルカーノフ

戦争三部作を凌駕するショスタコーヴィチの大作を演奏

6/11(木) 19:00 第583回 サントリーホール名曲シリーズ
サントリーホール

6/13(土) 14:00 第178回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
東京芸術劇場

プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番、ショスタコーヴィチ：交響曲 第10番
指揮：ユーリ・テミルカーノフ ピアノ：デニス・マツォエフ



ユーリ・
テミルカーノフ

わずか500席の親密な空間に響く、極上のモーツァルト

6/16(火) 19:30 第5回 読響アンサンブル・シリーズ
よみうり大手町ホール

《川瀬賢太郎のモーツァルト》

モーツァルト：歌劇〈フィガロの結婚〉序曲、

ヴァイオリン協奏曲 第3番、交響曲 第41番〈ジュピター〉
指揮：川瀬賢太郎 ヴァイオリン：アレクサンダー・シトコヴェツキー



川瀬賢太郎

テレビでも話題を呼ぶ注目の新星が〈新世界〉を指揮

6/19(金) 20:00 第10回 読響カレッジ 文京シビックホール
※19:30から解説

ドヴォルザーク：交響曲 第9番〈新世界から〉

指揮：石川星太郎 ナビゲーター：中井美穂



石川星太郎

人気ヴァイオリニストの神尾真由子が、久々の共演

6/24(水) 19:00 第17回 読響メトロポリタン・シリーズ
東京芸術劇場

6/25(木) 19:00 第11回 大阪定期演奏会
ザ・シンフォニーホール(大阪)

ベルリオーズ：歌劇〈ベンヴェヌート・チェッリーニ〉序曲

サン＝サーンス：ヴァイオリン協奏曲 第3番、ベルリオーズ：幻想交響曲

指揮：フランソワ＝グザヴィエ・ロト ヴァイオリン：神尾真由子



フランソワ＝
グザヴィエ・ロト

6月 公演の聴きどころ

6月の公演では、まずロシアの巨匠テミルカーノフが2年ぶりに来日し、マーラー、ショスタコーヴィチ、プロコフィエフの大作を次々と披露する。マーラーの交響曲第3番を取り上げる5日の《定期演奏会》は、今シーズン上半期の目玉のひとつ。管弦楽と声楽で合わせて200人以上からなる大編成を、巨匠が自在にドライブして、演奏時間100分を超える大作をダイナミックに描き切る。ザルツブルクにほど近いアッター湖畔の作曲小屋で紡がれた作品は、一帯の雄大な自然を映し出し、テミルカーノフの色彩感覚に富んだタクトが生きる。「愛が私に語ること」という仮題もあった終楽章では、息の長い旋律線をたっぷり繊細に歌わせる巨匠の指揮が、一段と冴えるだろう。

11、13日のロシア・プロは、20世紀の傑作2曲を並べた重量級だ。スターリンの死後すぐに発表されたショスタコーヴィチの交響曲第10番は、作曲家自身などを示す暗号の音型が縦横に張り巡らされた重要作。時代背景を熟知したテミルカーノフの説得力ある解釈にご注目を。プロコフィエフのピアノ協奏曲で最も人気が高い第3番では、同じロシア出身の技巧派ピアニスト、マツォエフがこの2公演のためだけに来日する。パワフルな打鍵から繰り出す豪快な表現力をいかに発揮して、モダンな曲想をフルに引き出す。

月末には、世界各地で高い評価を受けるフランスの鬼才ロトが読響に初登場する。自ら主宰する古楽器オーケストラ「レ・シエクル」の活動で脚光を浴び、カンブルランの後任でSWR(南西ドイツ放送)響の首席指揮者としても活躍する名匠だ。24日の東京芸術劇場に続いて、25日の大阪定期演奏会(ザ・シンフォニーホール)でも指揮台に上る。

曲目は得意とするオール・フランス・プロ。ベルリオーズの〈幻想交響曲〉では、作曲当時の古楽器奏法を現代のオーケストラへ持ち込むことで生まれる鮮烈なアプローチに、期待が膨らむ。サン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番では、チャイコフスキー国際コンクール優勝の名手・神尾真由子による、華麗なエスプリが効いた独奏も聴き逃さない。

(文責：事務局)

読響チケットWEB

検索

フランスの鬼才が、古典と現代作品へ鮮烈に挑戦

7/1 (水) 19:00 第550回 定期演奏会
サントリーホール

ブーレーズ：〈ノタシオン〉から
ベルク：ヴァイオリン協奏曲〈ある天使の思い出に〉
ハイドン：十字架上のキリストの最後の7つの言葉（管弦楽版）
指揮：フランソワ＝グザヴィエ・ロト
ヴァイオリン：郷古 廉



©Marco Borggreve
フランソワ＝
グザヴィエ・ロト

見果てぬ宇宙への夢と憧れを〈惑星〉の名旋律が運ぶ

7/24 (金) 19:00 第2回 東京オペラシティ名曲シリーズ
東京オペラシティ コンサートホール

7/25 (土) 14:00 第81回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール

ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲
ホルスト：組曲〈惑星〉
指揮：デニス・ラッセル・デイヴィス
ヴァイオリン：ダニエル・ゲーデ（読響コンサートマスター）
チェロ：グスタフ・リヴィニウス 児童合唱：東京少年少女合唱隊



©R. Winkler
デニス・ラッセル・
デイヴィス

“カリスマ”上岡敏之が繰り広げる、究極のアンサンブル

7/26 (日) 14:30 第6回 読響アンサンブル・シリーズ
よみうり大手町ホール

《上岡敏之×読響の室内楽》
モーツァルト：ピアノ四重奏曲 第1番
ブラームス：ピアノ五重奏曲
ピアノ：上岡敏之 ヴァイオリン：山田友子、赤池瑞枝
ヴィオラ：長岡晶子 チェロ：松葉春樹



©読響
上岡敏之

欧州音楽界を席卷する新鋭が、待望の日本デビュー

7/29 (水) 19:00 第584回 サントリーホール名曲シリーズ
サントリーホール

メンデルスゾーン：付随音楽〈真夏の夜の夢〉序曲、
ヴァイオリン協奏曲、交響曲 第4番〈イタリア〉
指揮：ジェレミー・ローレル
ヴァイオリン：ヴェロニカ・エーベルレ



©Yannick Coupannec
ジェレミー・ローレル

ボストン響などで活躍する俊英が振る《三大交響曲》

8/16 (日) 14:00 第3回 東京オペラシティ名曲シリーズ
東京オペラシティ コンサートホール

8/17 (月) 18:30 読響サマーフェスティバル2015《三大交響曲》
東京芸術劇場

シューベルト：交響曲 第7番〈未完成〉
ベートーヴェン：交響曲 第5番〈運命〉
ドヴォルザーク：交響曲 第9番〈新世界から〉
指揮：ケン＝デイヴィッド・マズア



©Beth Ross-Buckley
ケン＝デイヴィッド・
マズア

若手人気ソリスト3人が、《三大協奏曲》で競演

8/21 (金) 18:30 読響サマーフェスティバル2015《三大協奏曲》
東京芸術劇場

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲
ドヴォルザーク：チェロ協奏曲
チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番
指揮：下野 竜也
ヴァイオリン：服部百音 チェロ：アンドレアス・ブランテリド
ピアノ：HJ リム



下野竜也

首席客演指揮者・下野が振る得意のドヴォルザーク

8/23 (日) 14:00 第179回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
東京芸術劇場

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲、交響曲 第8番
指揮：下野 竜也
チェロ：アンドレアス・ブランテリド



©読響
下野竜也

古典派に精通した名匠・鈴木秀美が、待望の初登場

8/27 (木) 20:00 第11回 読響カレッジ 文京シビックホール
※19:30から解説

ベートーヴェン：交響曲 第3番〈英雄〉
指揮：鈴木 秀美
ナビゲーター：七尾藍佳



©K. Miura
鈴木秀美

お申し込み・
お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390
(10:00～18:00／年中無休)
ホームページアドレス <http://yomikyo.or.jp/>

文京シビックホール15周年記念公演 テミルカーノフ×読響

■6/7 (日) 15:00 文京シビックホール 大ホール

指揮: ユーリ・テミルカーノフ メゾ・ソプラノ: 小山由美

女声合唱: 新国立劇場合唱団 児童合唱: NHK東京児童合唱団

マーラー/交響曲 第3番

[お問い合わせ] シビックチケット 03-5803-1111 (10~19時)

読響×アプリコ クラシック二大傑作選〈皇帝〉&〈新世界〉

■6/20 (土) 15:00 大田区民ホール・アプリコ 大ホール

指揮: 石川星太郎 ピアノ: 仲道郁代

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番〈皇帝〉

ドヴォルザーク/交響曲 第9番〈新世界から〉

[お問い合わせ]

大田区民ホール・アプリコ 03-5744-1600

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10~18時、年中無休)

読響×夏のベートーヴェン! ~二大傑作〈皇帝〉&〈運命〉~

■7/4 (土) 15:00 かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮: 園田隆一郎 ピアノ: アンティ・シーララ

メンデルスゾーン/付随音楽〈真夏の夜の夢〉序曲

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番〈皇帝〉、交響曲 第5番〈運命〉

[お問い合わせ]

かつしかシンフォニーヒルズ 03-5670-2233

リンツ州立劇場との共同制作公演

東京二期会オペラ劇場〈魔笛〉

■7/16 (木) 18:30、18 (土)~20 (月・祝) 14:00 東京文化会館

指揮: デニス・ラッセル・デイヴィス 演出: 宮本亜門

出演: 妻屋秀和、鈴木准、森谷真理、幸田浩子 ほか (16日・19日)

大塚博章、金山京介、高橋維、嘉目真木子 ほか (18日・20日)

合唱: 二期会合唱団

モーツァルト/歌劇〈魔笛〉全2幕 (日本語字幕付き原語上演)

[お問い合わせ]

二期会チケットセンター 03-3796-1831